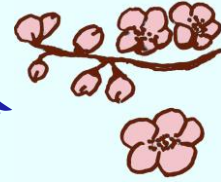




会報 藤井寺市観光ボランティアの会



〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1 (藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)
TEL : 072-939-1096 FAX : 072-936-9777

藤井寺 観光 ボランティア 検 索



世界遺産
World Heritage Site of Osaka
百舌鳥
古市古墳群
Mozu-Furuichi
Kofun Group

第 25 号 2022 年 1 月

《 令和 4 年 年初に向けて 》

藤井寺市観光ボランティアの会 会長 坂谷 義彦

日頃より当会の活動にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

令和2年度より鈴木氏から会長を引き継ぎ、更なる活動をと考えておりましたが突然の新型コロナウイルスの影響を受け、活動が休眠状態に陥った2年間でありました。

当該期間中、当会のガイドやイベント活動にお申込みいただきました多くのお客様には、状況を鑑みお断りすることとなってしまいましたが、10月の緊急事態宣言の解除以降は待ちかねたようにまた多くのお申し込みを頂いております。

そのご期待をしっかりと受け止め、万全なる感染対策を実施しながら前に向かっていきたいと思っております。引き続き皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

《 コロナ下における活動実績 》

新型コロナウイルスによるパンデミックは、数度のピークを繰り返しながらもいまだに完全収束していないのが現状です。この間、対応策を探るための活動を強いられ、ガイド件数の激減と多くの恒例行事の中止となりましたが、事態を理解できずに手をこまねいて機を逸してしまったことも否めません。

これからも、意気消沈することなく新たな試行を模索しながら、活動を継続していくつもりです。近況を以下に示しました。

主 催	R2/1月				R2/7月				R3/1月				R3/7月				R4/1月							
恒例行事	○ 梅まつり × 春季ウォーク				× 秋季ウォーク				× 春季ウォーク × 梅まつり × 外に出よう				× 秋季ウォーク × ふじいでらカルチャーフォーラム × あいうおーく											
観光ボランティア					○ 世界遺産1周年記念講演会																			
現地研修					○ 前期古墳の様相 大和古墳群とその周辺 ○ 中期大型古墳群と大型古墳の象徴 ○ 古墳時代の祭式								○ 丹後の巨大古墳を巡る ○ 伊賀の巨大古墳を巡る											
ガイド部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)	0	(1)	(1)	1	7		
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(7)	0	(3)	(3)	3	126		
イベント部					○ 古代衣装撮影会												○ イオン藤井寺 イベント ○ 葛井寺 御住職に聞く							
IT部	11	1	10	5	3	2	5	1	3	5	13	7	3	7	15	11	10	9	5	7	6	5	11	
(件数) マップ作製	6	11	1	0	0	1	1	1	7	7	3	3	2	0	0	0	7	0	0	2	0	3	2	
研修部					○ 郷土の歴史講座												○ 現地研修 久米寺と宣化天皇陵など							
レクリエーション プロジェクト													○ 明神山へ沈下橋				○ 廃線ハイキング ○ 天王寺七坂巡り ○ 大阪の渡船巡り							
広報部	ボラボラ通信				○ ○ ○ 1号 23号 4号				○ ○ ○ 5号 6号 7号				○ ○ ○ 8号 9号 10号											
幹事会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	×	×	0	0	0	0	0	0	0
定例会	0	0	0	×	0	×	×	0	×	0	0	0	×	×	×	×	0	×	×	0	0	0	0	0

×や()で示した行事は中止したものを示します

◀ 令和4年度にむけて ▶ 新幹事の紹介と抱負

ガイド部 小田島 洋子

私たち観光ボランティアの活動はお客様に当地へおいでいただき、古墳や寺社仏閣のガイドをして成り立っています。このコロナ下にあってはほぼ休眠状態で、特に20年の12月からの10ヶ月間は、まったく活動することができませんでした。

私は、21年度からガイド部の幹事をさせていただくようになりましたが、申し込みのあったガイドの準備をしては緊急事態宣言で中止の繰り返しでした。

ワクチン接種も進み、今年こそは以前のようにお客様をお迎えできるのではないかと、心待ちにしておられる方も多いと思います。

私も休眠中だった身体と頭のリハビリに励みながら、明るい春が来ることを楽しみに待ちたいと思います。

イベント部 松村 義子

例年、梅まつり・藤まつり・地域や各種イベント等に参画してきました。今年度はそれに加え、観ボラ会員対象の新しい取り組みを2件計画しています。

1つ目は、お寺や神社に出向いてご住職や宮司さまに直接お話を聞かせていただきます。パンフレット等に載っていることではなく、もっと掘り下げたお話やエピソード等を聞かせて頂きたいと考えています。

2つ目は、手作りサロンを開催することです。ここでは子どもたちを対象にしたイベント等での作品を充実させるため、試作等による内容のレベルアップを目指します。

これにより、私たちもご参加いただいたお客様も楽しめるような、また藤井寺の文化遺産を身近に感じるような活動に結びつけていきたいと考えています。

ホームページ・IT部 古川 雄二

勝部さんから幹事を引き継いで1年半、観ボラ通信を60回以上発信しました。多くはホームページ(HP)更新のお知らせなので、皆さんに投稿して戴いたお陰です。会の活動から個人の写真投稿まで、どのような内容でも構いませんので、気軽に利用して下さい。

2年近く続いたコロナ自粛が解除され、申込ガイドの依頼件数が元に戻りマップ作成が増えても、感覚が元に戻るのには時間が掛かりそうです。マップの作成方法を見直すタイミングかも知れません。マンパワーの増減に応じて部会の活動内容を見直し、観ボラライフを楽しめる方策を探っていきたいと思えます。

レクレーションプロジェクト やまぐち みつお

「行ってみたい」・「やってみたい」・「もっと知りたい」を「カタチ」に!

発足して1年足らずですがコロナの影響で十分なる活動ができておりません。現在はハイキングをメインに活動しておりますが、今後はアウトドアだけでなくインドアも企画します。一例として「終活企画」・「スマホマスター企画」等もとりいれていく予定です。

今回愛称を「ワクワク探偵団」として「より楽しい」「より面白い」グループ作りを目標に叡知を結集するためメンバーを募ります「あそこに行ってみよう」「こんなことを体験したい」「こんなことをもっと知りたい」をテーマにチャレンジしましょう。

事務局 安田 啓子

私は観ボラに入ってから現在に至るまで事務局に在籍しております。事務局の部員の方にも役割分担があり、年一回だけでもあれば毎月分担する仕事もあります。幹事はその仕事をすべて理解することが必要になり教えていただきながら少しずつ実行していくつもりです。

新型コロナウイルスで定例会が中止のときもありましたが、これからは例年通り第二火曜日に開催され、皆さまにお逢い出来ることを願っております。定例会前後の「わいわいがやがや」の雰囲気は私は大好きです。

定例会でのご要望やご意見など有りましたらご連絡お願い致します。事務局一同、協力しているような行事を盛り上げていきたいと思えます。

◆ 古墳にコーフン♥ツアー



イオン藤井寺ショッピングセンターで催されたイベントのお手伝いです。ミニ古墳資料館では展示品等の説明や見守り。休日は子ども達を対象に行われたいろいろな体験にも参加しました。

◆ 「寺院でお話を聞こう」の会



イベント部新企画の第1回目は葛井寺。森住職からは説明書きなどには書かれていない貴重なお話を聞かせていただきました。

(松村)

◆ 「地域の巨大古墳の様相を知る」 = 伊勢・伊賀方面の現地研修会

今回、伊勢・伊賀方面への現地研修会に参加しました。11月19日は晩秋というのに、日中は汗ばむ陽気でした。

名阪道、伊勢自動車道を経て、松阪市などを訪ねました。松阪市では「宝塚古墳」などを同市文化財センターの福田学芸員の詳しい解説に基づきご案内いただきました。

同古墳の発掘調査に関わられた方だけあって細部にわたる解説などから、この古墳を生かした「まちづくり」を行いたいとの思いをひしひしと感ずることができました。

「宝塚1号墳」は、古室山古墳と同様に登れる古墳で、晴天の日には富士山が見えるという。あいにく、曇り空であり遠くは見通せなかったが、眼下には松阪城と市街地が手に取るように見渡せました。西に目を落とせば、美杉の山並みも望めます。

松阪と同じように藤井寺の人々は、今でも古墳や歴史遺産とともに生活をしています。観光ボランティアの会は、このような人々の暮らしや記憶の甕にあるものを掘り起こすことも必要だと思う。それはいつでも墳丘に登れる古墳の町に生きているという想いが、暮らしの中に溶け込んでいるからです。(秋山)



◆ 「安治川隧道・難波の渡船」を巡る = 大阪市の水にまつわる2大ビューポイント

明神山・天王寺七坂・廃線ハイキングに続いて今回は大阪の渡船巡りをしてきました。

大阪に無料で乗れる渡船があるのを皆様は知っていましたか？二度の下見を終えて今日は本番。総勢20名で実施して途中タクシーに乗り換えたところもありました。あと1分でバスが発車という、危ないところもありましたが、4回の渡船と歩いて渡る安治川トンネルを巡り無事終了することができました。

オプションで絶景の夕日が眺められる大阪港では4名になりましたが、素晴らしい夕日を見ることができて大満足でした。皆様お疲れ様でした。

(山口)



ミステリアスな古墳

墓山古墳はミステリアスな古墳である。

全長225mの前方後円墳は、古市古墳群では5番目の大きさである。ちなみに全国では22番目だ。それにしてもこの名称の素っ気なさ、芸のなさは寂しいなと思っていたら、昔から堤や壕の一部が墓地に利用されていたのが由来だと知り納得をした。

人々の生活と古墳が密着し共存していたのだ。その大らかさ懐の深さを、人々は享受してきたのだ。古代の墓の上に、周辺住民の代々の墓が造られ、現在も守り継がれているのはなんとも興味深い。親亀の背中に子亀が乗って、甲羅干しをしているような長閑な光景が広がっている。

墓山古墳は4基の陪冢を持っている。なかでも野中古墳はよく知られている。

「うらやぶ」と呼ばれていた小さな古墳が、圧倒的な量の鉄製の武器や武具類を有していたのだ。当時、鉄製品は貴重品である。とびっきり豪勢な古墳が陪塚なのだ。

一挙に墓山古墳の存在が光り輝く。絶大な力を持つ配下を従えた首長は、一体何者なのかと、謎が謎を呼ぶ。今も昔も持つべきは力のある配下だ。

そんな数々のエピソードを持つ墓山古墳は、実は「応神天皇陵ほ号陪冢」に治定されている。陪冢を持つ陪塚。これがミステリアスな古墳と言わずしてなんと言おうか。

「まだ私にたどり着けないのか、1500年以上も経つというのに。いつになったら私を見つけるのだ。早く私を陽の下に出してくれ、名無しの権力者にはもう飽きた」

被葬者は闇の奥深くでやきもきしていることだろう。

墓山古墳



野中古墳



お詫び

「大井という村の物語7」はお休みとさせて頂きました。次回26号から掲載させて頂きます。1月に会報を発行する予定でしたが2月に発行が延期になりました、申し訳ありませんでした。